

先週の礼拝メッセージ(2022年2月13日) ベン牧師

「教会の働き人」 エフェソの信徒への手紙 4:11-13



今日の聖書箇所は、教会に与えられた働き人、すなわち職務の賜物がなぜ与えられているのかについて教えられている箇所です。

教会の成長のために、神様は教会に働き人を与えてくださっています。

「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。」(11節)

使徒とは、イエス様から直接遣わされた人々、12弟子やパウロといった人々です。

また預言者と呼ばれる人も聖書に登場します。現代に預言者がいるかいないかは、神学の論点でもありますが、多くの人は説教者や神学者を指しているのではないかと考えます。

福音宣教者は、文字通り、宣教師や巡回伝道者を指します。

最後に牧師、教師です。これは別々ではなく、牧師は教師でもあるのです。ただ、単に教師とだけ書かれているのではないのは、聖書を教えるだけでなく、教会に集う人々をケアしていく職務が与えられているからです。キリストがこれらの人々を教会に立ててくださいました。そして、その目的が12、13節に記されています。

「こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」

聖なる者とはクリスチャンです。牧師は、教会に集うクリスチャンたちを奉仕の業に適したものと調えるためにいるのだということです。奉仕という言葉が使われていますが、ボランティアとは違います。ミニストリーという表現が良いでしょう。ミニストリーとボランティアの決定的な違いは、ミニストリーは、イエス様のため、教会を建て上げるために、自分に与えられた使命として受け取り行うということです。

それはメッセージを語るだけではありません。教会学校も奏楽も受付やお掃除も、すべてミニストリーなのです。ボランティアだと、自分の都合で

やめたりできますが、神様から与えられた使命であるなら、その姿勢は自ずと変わってくるはずですよ。

12節に「適した」と訳されている言葉は、元は「装備する」という言葉です。戦いの際に武具を身につけるといことにつながります。エフェソの手紙でも、6章に「神の武具を身に着けなさい」(13節)と記され、14節以降には具体的に、「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け・・・」(14~17節)と、どのような武具を身につけるかが記されています。

教会の皆さんが、これらの武具をきちんと身につけて、信仰の戦いを戦えるように、牧師は教会に立てられているのです。それが牧師の職務なのです。キリストの体の各器官として、一人ひとりが働いてこそ教会はキリストの体として成長するのです。

ですから牧師は学ぶ必要があり、その知識をみなさんに分かち合う責任があるのです。みなさんがみことばに養われることなしに、キリストの体は作り上げることができないからです。ですから私は、礼拝だけでなく、平日のみことばの学びに力を入れています。

私たちが信仰において一致するためには、私たちの聖書理解が一致する必要があるからです。できれば教会の全員がみことばの学びに参加していただきたいというのが私の願いです。

イエス様がどういうお方なのか、聖書はなんと言っているのか、知識においても一致が必要です。そのような一致を得る時、成熟した人となるのみことばは約束します。これは立派な人となるという意味ではなく、神様の前に整えられた人となるということです。そして、キリストの満ちあふれた豊かさを皆で共有していくのです。

私たちは恵みを受け、祝福を受けるために教会に行くのは当然ですが、成熟した私たちは、霊とまことをもって心から神を礼拝する真の礼拝者として、キリストの体である教会が活発に健全に成長するために、私に与えられている賜物をもってミニストリーに加わっていくのです。

その結果として神様の祝福が注がれ満たされるのです。

